

変わる球児のユニホーム 個性的デザインご注目



春の県大会で縦じまユニホームを初披露した明石商＝4月17日、明石球場（撮影・神子素慎一）



機能性も考慮して胸のロゴをプリント式にした姫路南の新ユニホーム＝姫路市の同校（撮影・大山伸一郎）

合同チームの神戸西のユニホームで統一するため、公式戦での披露は8月の地区大会からとなる。尼崎小田も新チームから日本代表チームのユニホームに近い、グレー地に青の縦じまに新調する。

一方、姫路南は夏に向けてポリエステル製のユニホームに衣替え。綿製より軽く速乾性に優れるといい、胸の学校名も刺しゅうから特殊なプリントにして軽量化を図った。堤邦光投手（3年）は「夏は汗でユニホームがぬれて重くなっていた。（疲れが出始める）試合終盤に違いが感じられると思う」と酷暑対策に期待する。

兵庫の高校球児のユニホームが変わりつつある。長く規制されていた色とデザインが昨年“自由化”され、今春から明石商が縦じまのユニホームを着用。秋にはさらに2校が縦じまに新調する。一方で機能性にこだわるチームもあり、今夏はプレーだけでなく個性的なユニホームにも注目が集まりそうだ。

兵庫県高野連はこれまで、伝統を重んじてユニホームは白かアイボリーの無地に限っていた。しかし、多様なデザインが認められている全国的な流れを受け、昨春に色やデザインを一部解禁。以降、グレー地を採用するチームが増えている。

「縦じま」のトップを切ったのは明石商。県高野連によると、明確な規定がなかった約30年前に八代学院（現神戸国際大付）が縦じまを採用していた時期があったが、規制解禁後では明石商が県内で初めて。白地に紺のストライプで、同校の狭間善徳監督がかつて強豪の明德義塾中（高知）の監督を務めていたことから、「強いチームにあやかれたら」と同校のデザインを基調にした。

神戸西と須磨が統合して2009年に新設された須磨翔風は「新しい学校にふさわしいものを」と、校章に合わせて白地に青のラインを入れた。既に練習試合では着用しているが、今夏は



お知らせ

親善大使「スマイル神戸」募集 **NEW**
 第1回ひょうご新聞感想文コンクールUP
 デイリースポーツ電子版スタート
 神戸洋菓子職人のネットストア
 お中元に最適！ギフト始めました **NEW**

神戸のお天気 11日

6時	12時	18時
神戸	姫路	西脇
豊岡	洲本	大阪
京都		

連載・特集

一覧

JR脱線事故	民意の起訴
新型インフル特集	岡崎の軌跡 W杯
県西・北部豪雨特集	B型肝炎 和解の行方